

行政視察報告

委員会名	保健福祉委員会
視察日	平成29年5月9日(火)
視察先	青森県青森市
視察委員	くぼ 洋子 委員長 かわごえ 誠一 副委員長 伊藤 よしのり 委員 平田 みつよし 委員 江 口 ひさみ 委員 黒柳 じょうじ 委員 三小田 准 一 委員 むらまつ 勝康 委員
調査項目	青森市総合福祉センター（複合施設）事業について
事業概要	青森市総合福祉センターは、社会福祉の一層の充実を図るため、「老人福祉センター」「身体障害者福祉センター」「児童センター」「子ども支援センター」の4つの機能を一体化した複合施設である。
視察内容	<p>設置者 青森市 運営 社会福祉法人 青森市社会福祉協議会（指定管理者）、福祉部子どもしあわせ課 開館 昭和61年4月15日 施設内 和室、浴室、教養娯楽室、大集会室、研修室、作業室、視聴覚室、機能回復訓練室、遊戯室、図書室 など 施設外 ゲートボール場（1,486.11㎡）</p> <p>事業内容</p> <p>老人福祉センター 入浴施設を活用した健康の増進、教養の向上を図るためのサービスの提供、講座の実施（実施講座：健康体操、車高ダンス、陶芸、ヨガなど25講座）</p> <p>身体障害者福祉センター 障害者の社会参加の場の確保、社会的自立を図るためのサービスの提供</p> <p>児童センター（近隣小学校1～3年生が利用者登録をしている。4年生以上は自由来館） 児童の健全な遊び場の確保、体力の増進を図るためのサービスの提供、中高生の居場所作り、各種催し物の実施、父子手帳の発行</p> <p>子ども支援センター（基幹型地域子育て支援センター） 子育て家庭に対する育児支援、子ども自身からの悩み・子育てに関する悩み相談事業、プレイルームの開放、子育て講座の開催</p> <p>子どもの権利相談センター 子どもの権利侵害に関する相談・救済事業</p> <p>年間利用実績 平成28年度／115,749人</p>
主な質疑内容	<p>(問) 児童センター利用状況の中の「登録児童」とは。 (答) 小学1～3年生の低学年の子どもたちは、施設で何かあった場合の連絡や1人では家に帰りにくいといったこともあるので、基本的にはそれぞれ学区内にある児童館に登録をしています。特に出欠確認をするものではありません。</p> <p>(問) 「老人福祉センター」の利用状況や講座の状況はどうか。 (答) 入浴料は無料で、介護度関係なく受け入れている。講座は25講座あり、特に身体を動かすものに非常に人気を集っている。施設年間利用者数は約6万人となっている。</p> <p>(問) 子どもの権利相談センターのメール相談の返信方法や本事業の周知方法をどのように行っているのか。 (答) 相談員3名で話し合い返信する。深刻な場合は擁護委員へも相談する。また、相談者の了解を得て学校に繋げ、間に立って調整を図る場合もある。周知は各学校を通じて行っている。</p> <p>(問) 子どもの権利相談センターの相談状況を見ると、1人あたりの相談件数が多く、深刻化しているように見受けられ、平成28年度の不登校の子ども1人が299回、心身の悩みは102回となっている。学校現場や児童相談所とどのように連携しているのか。 (答) いじめが原因の場合、センターが間に入って取り持つことを行っている。本件児童は最終的に学校へ登校できるようになった。何が子どもにとって一番良いのかを考えながら取り組んでいる。</p>

行政視察報告

委員会名	保健福祉委員会
視察日	平成29年5月10日(水)
視察先	宮城県仙台市
視察委員	くぼ 洋子 委員長 かわごえ 誠一 副委員長 伊藤 よしのり 委員 平田 みつよし 委員 江 口 ひさみ 委員 黒柳 じょうじ 委員 三小田 准 一 委員 むらまつ 勝康 委員
調査項目	仙台市子育てふれあいプラザ運営事業（のびすく泉中央）について
事業概要	子育てを総合的に支援することを目的とした施設（指定管理者による管理運営）。仙台市泉図書館3階と4階部分が「のびすく泉中央」になっている。 3階は、乳幼児親子のための「ひろば」と託児室が設けられている。泉区内の情報を集めた「情報コーナー」も特徴の一つ。4階には、子育て支援団体や、中学生・高校生のグループが打合せや各種の作業を行える「活動室」、「交流コーナー」、ホールなどがある。
視察内容	「子育てふれあいプラザ」は、仙台市が子育てを総合的に支援することを目的として設置した拠点施設で、市内4カ所ある（中央・北部・南部・宮城野区）。「のびすく泉中央」はそのうちのの一つ（北部）。仙台市泉中央図書館の3・4階部分にあたる。 設置者 仙台市 財産管理 仙台市教育委員会事務局 運営 一般社団法人 マザー・ウィング（指定管理者） 開館 平成21年4月28日 施設内 ひろば、託児室、ホール、活動室、交流コーナー、多目的室 など 事業内容 3階（主に乳幼児親子が利用） 乳幼児と保護者が自由に遊べる、ハイハイやヨチヨチ歩きのお子さん専用のひろば、一時預かりの託児サービス（有料）、相談事業、泉区内の情報を集めた情報コーナー 4階（主に子育て支援団体、中学生・高校生が利用） 子育て支援者の支援をするための「子育て支援サポートセンター」、中高生の居場所「交流コーナー」、ホール（200席）の貸出 など 子育て支援者へのサポート 活動支援（活動室や資材の貸し出し、情報提供など）
主な質疑内容	<p>(問) ホームスタート（家庭訪問型子育て支援）とはどのような事業か。 (答) モデル事業で、5年目になり、現在年間20家庭になる。他の事業と抱き合わせにしていくことで、いろいろな人のニーズに合ってくるのかなと思う。「COCOニール」（グループケア）という3回の事業があり、少し気になる母を集めてホームスタートとミックスして行う。この事業は、ボランティアがやるということが大事で、職員はコーディネーターとなる。</p> <p>(問) 中学生の子供の居場所事業を行ううえでのノウハウを伺いたい。 (答) いつ来ていつ帰ってもいい、自由な状態で制限を設けていない。また、中学生のニーズを掘り起こし、「やりたい」という気持ちにさせることだと思う。スタッフがいることも大事で、同じ空間でつながりを持ち、広い目でみてあげることや、適度な距離を取ることが大切である。</p> <p>(問) 中学生にアドバイスをするなど、コーディネート的なことはするのか。 (答) アドバイス的なことはせず、傾聴というかたちをとっている。職員のレベルアップが大変だが、ワンストップ支援が良い形と思っている。</p> <p>(問) 相談事業の、市との連携はどのようになっているのか。 (答) 家庭健康課（保健師）と連携し、課題を共有しお互いにみていくようにしている。訪問もお願いしている。市とのケース会議で検討し、支援の足りないところはホームスタートへつなげる。また、託児からの相談につながることも多い。疲れている母を発見し、託児事業へと導き、母への声掛けや悩みを聞くことを行ったり、ひろばスタッフが声掛けをし、サポートメニューを紹介している。このように、託児の利用のみの方もいる。</p>